

フランス語における「語調緩和の半過去」

曾 我 祐 典

0. はじめに

本稿は、フランス語の直說法半過去（以下、IMP）の用法の一つである「語調緩和の半過去 *imparfait d'atténuation*」（IA）がどのようなものであるかを、言語実態の観察とインフォーマントの面接調査にもとづいて明らかにすることをめざす⁽¹⁾。

IA は、語調緩和が社会的・文化的要素を含む複雑な操作であるためか、先行研究に明確な定義がなく、範囲も研究者によってかなり異なっている。それでも、次の（1）、（2）のような「欲求」にかかわるタイプのものと（3）のような「移動」にかかわるタイプのものは⁽²⁾、どの研究者も IA に含めている。

（1）Je **voulais** vous demander un petit service. (Wilmet 1997: 384)

（2）Excusez-moi, je **cherchais** la rue du Mont-Blanc. (S & S 2005: 109)

（3）Je **venais** vous demander si vous ne pourriez pas baisser un peu le son. (Lebaud 1993: 175)

先行研究の中には、語調緩和の効果を「間接性（申し出 *requête* を、直接打ち出さずに先立つ欲求または移動に言及することによって伝える）」によって説明しようとするものがある（B & K 1994, Anscombre 2004, etc.）が、それなら現在形（PR）でも良いことになる。そのような説明は、上の二つのタイプについても不十分であり、他のタイプにはまったく適用できない。やはり、IA は、渡邊（2006: 60）も指摘するとおり、IMP の使用が鍵なのである。

そこで、以下では、**IMP** の機能を検討し (1), それを踏まえて欲求・移動に言及する発話例を分析し (2), 第三のタイプを含む **IA** の特性を考える (3) ことにしよう。

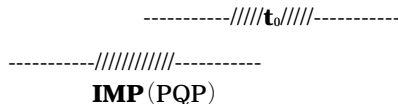
1. 半過去の機能

1. 1. 「以前スペース」

発話者は、ふつう、発話時点 t_0 を中心とする時間的広がりにいるという意識がある。時間的広がりをスペースと呼ぶことにすると、 t_0 を中心とするスペースは現在スペースということになる⁽³⁾。発話者は現在スペースまたは過去スペース（まれに未来スペース）から以前のスペースを思い描いて、そこにおいてとらえられる事態を表すときに **IMP**（事行が完了段階なら大過去 **PQP**）を用いる。ただし、

- 1) 事態をとらえる主体は、「以前スペース」に意識が仮に移っている発話者またはそこに意識のある別の主体（＝話に出てくる人物）である。
- 2) **IMP** は完了アスペクト **aspect accompli** 以外のさまざまなアスペクトについて使うことができる。
- 3) 事態が当該「以前スペース」以外のスペースにおいても生起しているかどうかについては、**IMP** 自体は情報を与えない。

現在スペースから思い描く「以前スペース」（＝過去スペース）は、次の図の下の方の横軸の斜線部分のように示すことができる。



1. 2. 過去スペースを思い描く動機

IMP は、従来、**PC・PS** などで表された事態や時況表現などによって示された基準点を必要とし、基準点と同時に展開する事態を表すと言われてきた。

しかし、発話者は、さまざまな動機から過去スペースを思い描くのであって、なんらかの基準点（過去の事態・時点）を踏まえるとはかぎらない。

1. 2. 1. 過去の事態・時点をきっかけとしない場合

実際、現在スペースの状況となんらかの対比をするために過去スペースを思い描いてそこにおける事態を表すことがあるが、あらかじめ想定した過去の事態・時点を踏まえているわけではない。そのような IMP 使用の例をいくつか見ておこう。

(4) Ah, ça alors! Je vous **croyais** à Nantes! (*Mado*)

(5) A: Il est mécontent de sa nouvelle voiture.

B: Je m'y **attendais**. (西村 2003-12: 72)

(6) A: Ça me fait plaisir que tu sois venu. . .

B: Je **voulais** venir avant mais. . .

(7) La vie est devenue terriblement chère à Paris. Quand j'**étais** étudiant, le loyer de mon studio ne s'élevait même pas à 600 francs.

1. 2. 2. 過去の事態・時点をきっかけとする場合

もちろん、時況表現によって示される過去時点 t_p や PC・PS などでは表される事態（その生起時点も t_p とする）をきっかけとして過去スペースを思い描くことも多い。この場合の過去スペースは、 t_p を中心とする広がりである。発話者は、過去スペースにおいて t_p に直接つながっているととらえられる事態を IMP で表す。 t_p における事態に言及する次の (8 a-c) はその例である。

(8) a. Quand je l'ai connue, elle **travaillait** dans une firme commerciale.

b. A ce moment-là Clarisse **jouait** au tennis avec des amis.

c. Galilée a soutenu que la Terre **tournait** autour du Soleil.

これら t_p における事態は、半過去は基準点 t_p と同時に展開する事態を表すという従来の記述に合致するものだが、「 t_p に直接つながっているととらえられる事態」は、 t_p における事態だけでないことに注意する必要がある。実際、それには、 t_p の状況に深くかかわる t_p より前の事態 (9 a, b) も後の事態 (10

a-c) も含まれるのである。

- (9) a. J'ai revu les Dupont hier. Ils **rentraient** de vacances.
 b. Tu sais, hier, ils ont attrapé une contravention à la sortie de la ville. Ils **roulaient** trop vite.
- (10) a. Elle **partait** tout de suite.
 b. Le garçon m'a apporté un café et un croissant. Le café **était** très bon.
 c. Jean tourna l'interrupteur. La lumière éclatante l'**éblouissait**.

2. 「欲求」または「移動」に言及する発話

先行研究の多くは、IA の動詞が表す事行は「欲求」または「移動」だと考えている。ここでは、欲求・移動の動詞を用いる IA の検討から始めよう。

2. 1. 二つの先行研究

IA に全体的または部分的にかかわる研究は近年ふえてきているが、ここではとくに優れた論考二つを紹介しておこう。

まず、Anscombe (2004) である。この論考では、IA を PR では断定的・直接的すぎるところをやわらげる用法と規定し、不定法を従えて助動詞的な役割を果たす *avoir*, *se proposer*, *venir*, *vouloir* などいくつかの動詞 (1 人称) に見られるとしている。発話例としては、次のようなものを示している (Anscombe 2004: 77)。

- (11) a. Je **voulais** vous demander si vous viendrez à notre réunion.
 b. Je **voulais** un maillot de bain.
 c. J'**avais besoin** d'un maillot de bain.
 d. J'**avais** encore une chose à vous demander.
 e. Bonjour, monsieur, je **venais** voir si vous aviez réfléchi à mon offre.

- f. Je **souhaitais** m'entretenir avec le patron.
- g. Je **désirais** vous présenter des excuses.
- h. Je **me proposais** de vous parler de mon projet.
- i. J'**avais** l'intention de vous demander une augmentation.
- j. J'**avais** très envie d'une glace.
- k. Il me **fallait** un rendez-vous pour demain.
- l. Je **passais** juste pour prendre mon agenda.
- m. Je **cherchais** un maillot de bain.
- n. Je **téléphonais/appelais** juste pour demander l'adresse de Léa.
- o. Je **pensais** (qu'on pourrait + à la possibilité d') aller faire un petit tour.

もう一つは渡邊（2006）である。この論考は、「丁寧の半過去 **imparfait de politesse**」（IA と「接客の半過去 **imparfait forain**」を含む）と日本語の「よろしかったでしょうか」型語法を対照するものである。IA のメカニズムについては、ほぼ次のように述べている（渡邊 2006 : 61, 77）。

語調緩和の用法においては、半過去は、対話者への依頼内容を欲求しつつあった、あるいは依頼をする場所へとむかって移動しつつあった近い過去を、未完了相のもとで示す。そのことと、現に発話者がなんらかの依頼のためにこそ発話の場において、対話者に話しかけているという言語外的状況とがあわさった結果として、未完了の過去として示された欲求は、「(...) 現在の事態」として解釈されるにいたる。ひとつには、この迂路を介することによって、間接的表現であるがゆえの丁寧さが出てくるのである (...) 一方、半過去の潜在的解釈として、発話時点においてはもはや当該の依頼は有効ではないという読みの余地も皆無というわけではない。この潜在的なこととなる解釈の余地を残していることもまた、ことと次第によっては依頼者たる発話者がひきさがる可能性もあることを意味していることから、丁寧さを生むもうひとつの過程であると考えられる。語調

緩和の半過去の丁寧さは、これらふたつの要因からきているのである。IA に用いる動詞は、**vouloir, venir, désirer, chercher** などである。

Anscombre (2004) は、多くの研究とちがって、IA とは何であるかをかなり明確にしている。一方、渡邊 (2006) は、それまでの研究の欠陥を補ってより説得力のある説明を提案している。しかし、どちらも IA の特性を十分に解明しているとは言えない。

2. 2. 「欲求」に言及する IA

ここでは、「欲求」に言及する発話例を検討しよう。IA に用いる動詞は、意味によって 1) 意欲・願望, 2) 意向・意思, 3) 必要の三つに分類できる。以下、この順に発話例を見ていこう。

1) 意欲・願望

用いる動詞 (句) はかなり多いが、もっとも使用頻度が高いのは **vouloir** である。とくに〈**vouloir Inf**〉の発話例は、IA を論じるどの先行研究も示している。Inf は、Abouda (2004) などいくつかの先行研究の指摘に反して、遂行動詞にかざらない。そのことは、(13), (14) のような発話例からも分かる。

(12) [同僚の姿を見かけて]

Pierre, je **voulais** te demander quelque chose.

(13) [同僚の部屋に入るとき]

Je **voulais** utiliser l'ordinateur.

(14) [エレベーターで上司 B にばったり会って]

A : Je **voulais** vous voir, monsieur Brassac. . . vous parler un moment. . .

B : Allons dans mon bureau. . .

動詞が従えるのは不定法にかぎると考える先行研究もあるが、その考えには問題がある。動詞が名詞グループや補足節を従える発話で IA と見なすべきものは少しも珍しくない。〈**vouloir N**〉の発話例は、次のようなものである。

(15) [ワインショップで]

Bonjour, je **voulais** une bouteille de vin blanc sec.

(16) [観光案内所で]

Bonjour, je **voulais** un plan de la ville/un renseignement.

どちらも対話の冒頭の発話だが、IA の例と認めることができる。IA としての成立を左右するのは、IMP で表すべき「過去スペースの事態」があったことを相手に分かってもらえるかどうかであると考えられる。(15), (16)では、話題の事態が、現在スペースだけでなく過去スペースにおいてもあったと相手が察することが容易であるために、IA として通用すると言える。

〈vouloir que Sub〉の発話例も珍しくない。Abouda (2004) も紹介していて、次の(17)のIAについて **Présentez-nous votre projet!** の **atténuation** であり、**neutralisation d'un acte de langage injonctif** と見なせる、と言う (Abouda 2004 : 64)。

(17) Je **voulais** que vous nous présentiez votre projet.

しかし、Je **voulais**... と対照するべき項は Je **veux**... であり、この場面では PR の使用を避けて IMP を用いているという事実を見失ってはならない。

vouloir 以外の動詞 (句) は、**avoir** [N (à inf)], **avoir envie** [de N/de Inf], **chercher**, **désirer**, **souhater**, **tenir** [à Inf] などである。それぞれ一つづつ発話例を示すにとどめる。これまでに見た (12)－(17) の場面と同じく (18)－(23) の場面でも発話者は「過去スペースの事態」に IMP で言及しているわけだが、どの場面においても IMP と同じ動詞の PR で表しうる事態があることは明らかである。

(18) J'**avais** un petit service à vous demander.(19) J'**avais** envie d'aller à la plage, pas toi? (S & S 2005 : 109)

(20) [書店で]

A : Monsieur, puis-je vous aider?

B : Je **cherchais** le dernier Fred Vargas.

(21) Je **désirais** discuter avec vous.

(22) Je **souhaitais** m'entretenir avec le directeur de recherche.

(23) Je **tenais** à vous donner des nouvelles de Clarisse.

2) 意向・意思

ここでは, avoir l'intention [de Inf], compter [Inf], se demander, espérer, penser, se proposer [de Inf], voir などについて, 一つずつ発話例を示しておこう。

(24) (= 11 i) J'**avais l'intention** de vous demander une augmentation.

(25) Je **comptais** prendre mes vacances en septembre.

(26) Je **me demandais** si vous seriez d'accord.

(27) J'**espérais** passer un petit moment en tête à tête avec toi. Ça va, maintenant?

(28) Je **pensais** sortir prendre l'air.

(29) (= 11 h) Je **me proposais** de vous parler de mon projet.

(30) J'y **voyais** plutôt un phénomène pragmatique. (S & S 2005 : 109)

3) 必要

avoir besoin [de N, de Inf, que Sub] と falloir [N, Inf, que Sub] の発話例を一つずつ示しておこう。

(31) Au fait, j'**avais besoin** de te demander un petit service.

(32) [オフィスで同僚を呼び止めて]

Pierre, il **fallait** que je te parle.

「欲求」に言及する発話例の検討から, 次のことが言える。どの場面でも発話者は「過去スペースの事態」に IMP で言及しているが, その場面には IMP と同じ動詞の PR で表しうる事態がある。また, 事態は, 相手が「なんらかの行動を求められている」と感じ, 心理的負担になるおそれのある事態, つまり相手にとって「脅威」となるおそれのある事態である。PR を用いると, そ

のような事態を相手につきつけることになりかねない。IA は、IMP を用いることによって、相手の心理的負担を避ける用法ということになるだろう。

2. 3. 「移動」に言及する IA

「移動」は、相手にとって自分の領域に踏み込まれるということであり、「脅威」と感じるおそれがある。「移動」に言及する発話に用いる動詞としては、移動動詞と電話をかけることを表す動詞とが認められる。

1) 移動の動詞：主体移動と客体移動

IA に関する先行研究が移動動詞としているのは *venir* [Inf/pour Inf/pour N] と *passer* [(pour) Inf] という主体移動の二動詞だけである。いくつかの発話例を見ておこう。

(33) [ホテルの従業員が客室に来て]

Je **venais** régler le chauffage.

(34) [画廊で]

A : Vous venez me montrer vos peintures?

B : Ah non, je **venais** juste pour regarder. (西村 1999 : 104)

(35) Bonjour! Je **venais** pour l'appartement du 34, rue Dareau.

(36) Bonjour. Je ne vous dérange pas? Je **passais** prendre de vos nouvelles.

(37) [マンションに戻った Igor が姿を隠そうとする Jeanne に]

Mais entrez, vous ne me gênez en aucune façon. (...) Comme je pars en voyage, je **passais** simplement prendre quelques affaires.

(C. *printemps*)

先行研究が IA に用いる「移動」の動詞としているのは主体移動の動詞 *passer*, *venir* だけだが、次の(38)－(40)のように客体移動の動詞 *apporter*, *amener* も IA に用いうる。

(38) [仕事に没頭している同僚に]

Je t'**apportais** du café.

(39) [警察で捜査官が同僚に]

Je t'**amenais** le type en question. Tu as le temps maintenant?

(40) Maman! Je t'**amenais** un cuisinier au cas où tu manquerais de main. . .

amener は発話者と相手以外に移動客体に対する配慮が必要になる分だけ、使用にかかわる制約は厳しいと考えられる。

2) 電話をかけることを表す動詞

多くの先行研究が取り上げているのは **appeler** と **téléphoner** であるが、**rappeler** も考えられるだろう。ここでは、**appeler** と **téléphoner** の発話例を一つずつ示すにとどめる。

(41) Paul : Allo?

Valérie : C'est Valérie.

Paul : Bonjour.

Valérie : Je t'**appelais** pour savoir si tu voulais qu'on se voie.

(*Comment je me suis disputé. (ma vie sexuelle)*)

(42) Je vous **téléphonaïs** pour savoir si tout va bien au bureau.

「移動」に言及する (33)－(42) の検討からは、次のことが言える。すべての場面で発話者は「過去スペースの事態」に **IMP** で言及しているわけだが、どの場面においても **IMP** と同じ動詞の **PR** で表しうる事態がある。言及する事態は、相手が「自分の領域に踏み込まれる」と感じ、「脅威」と受け取るおそれのある事態である。**PR** を用いると、そのような事態を相手につきつけることになりかねない。つまり、**IA** は、**IMP** を用いることによって、相手が領域侵犯の「脅威」を感じるのを避ける用法ということになるだろう。

3. 「語調緩和の半過去」の特性と第三のタイプ

3. 1. 語調緩和の定義

上の2で見てきたことから、次のようなことが言える。すなわち、**IA** を用いる対話場面には、原則として **IMP** と同じ動詞の **PR** で表せる事態があり、そのことは、状況から相手も見当がついている。発話者は、次の二つの選択肢のうち **B** を選択しているのである：

- A. 現在スペースの事態を **PR** で表現する。
- B. 過去スペースの事態を **IMP** で表現する。

言い換えると、**IA** は、**A** と **B** の両方が考えられる場面にかぎられる。たとえば、(43) は [je-te-voir seul] が実現しているために **A** が考えられないので、**IMP** は **IA** として機能しない。また、(3') はそもそも **IMP** を用いる **B** が考えられない。

(43) [相手を別の部屋に連れて行って]

Je **voulais** /**veux* te voir seul avant de m'en aller. (Abouda 2004 : 69)

(3') Je vous ***demandais** /^{ok}*demande* si vous ne pourriez pas baisser un peu le son.

このような観察にもとづくと、**IA** は次のように定義することができる。

(44) **IA** の定義

PR と **IMP** のどちらの使用も考えられる場面で、**PR** を避けて **IMP** を使うことによって語調を緩和する用法。

IA の発話の主語としては、1 人称だけでなく、2 人称もある（疑問文）。

(45) [講師が聴衆の一人に]

- a. Vous **aviez** une question, je crois?
- b. Vous **pensiez** à un contre-exemple? (S & S 2005 : 109)

(46) [書店員が客に]

Vous vouliez/désiriez/cherchiez/aviez besoin de un titre particulier?

(47) [店員が客に]

Il vous fallait quelque chose d'autre?

(46), (47) のような発話は、しばしば「接客の半過去 **imparfait forain**」という用法に分類されるが、(44) の定義に適っているのだから、**IA** でもあることになる。一方、「接客の半過去 **imparfait forain**」の発話で 3 人称主語のものはしくみが異なるので、**IA** と見なすことはできない⁽⁴⁾,

上の 2. 2. と 2. 3. の最後でも述べたように、語調緩和の効果は次のようにして生まれると考えられる。**PR** を用いると、「脅威」と感じるおそれのある事態を相手につきつけることになりかねない。「脅威」としては、次の二つを見た：

1) 相手の心理的負担：相手が「なんらかの行動を求められている」と感じる。

2) 相手の領域の侵犯：相手が「領域に踏み込まれる」と感じる。

実は、「脅威」としては次の 3) も考えられるが、これについては次の 3. 2. で検討しよう。

3) 自分の領域からの相手の排除：相手が「追い払われている」と感じる。

IA は、**IMP** を用いることによって 1)－3) を避けようとする用法なのである。すでに指摘したとおり、**IA** に用いる動詞は先行研究の多くが想定するよりも多い。また、動詞が従えるのは不定法にかぎるかのような記述もあるが、これまで見てきたように、かなり多くの動詞は不定法以外の要素を従えうる。

3. 2. 第三のタイプ：自分の領域からの相手の排除を避ける **IA**

従来は **IA** として扱われてこなかったが、**IA** の定義 (44) に適う **IMP** が他にもある。たとえば、次の (48) のようなものである。

(48) [休んでいるところに A がやってきた]

A : Qu'est-ce que tu fais?

B : Je me *reposais*.

「je-me-reposer 休んでいる」という事態は A の来訪の前にもあったし今もあるのだが、(48) の場面で PR を使って「休んでいる」と伝えることは「あなたを歓迎しない、帰ってくれ」と言うことにひとしい。IMP を使えば、A の来訪前の過去スペースにおける「休んでいる」という事態に言及することになる。「事態が当該『以前スペース』以外のスペースにおいても生起しているかどうかについては、IMP 自体は情報を与えない」ために⁽⁵⁾、現在スペースにおいて「休んでいる（あなたを歓迎しない）」と「休んでいない（あなたを歓迎する）」の選択肢のあいだでの選択を相手にゆだねていることになる。

次の (49) も同様である。

(49) [子供と遊んでいるところに A がやってきた]

A : Qu'est-ce que tu fais?

B : Je *jouais* avec les petits.

「je-jouer-avec les petits 子供と遊んでいる」という事態は A の来訪の前にもあったし今もある。(49) の場面で PR を使えば、「あなたを歓迎しない、帰ってくれ」と言うことにひとしい。一方、IMP を使って A の来訪前の過去スペースにおける事態に言及すれば、現在スペースにおいて「子供と遊んでいる（あなたを歓迎しない）」と「子供と遊んでいない（あなたを歓迎する）」の選択肢のあいだでの選択を相手にゆだねていることになる。

次の (50) も (48)、(49) と類似の場面である。

(50) [音楽を聞いているところに A がやってきた]

A : Qu'est-ce que tu fais?

B : J'*écoutais* de la musique.

IMP を使って A の来訪前の過去スペースにおける事態に言及することによって、現在スペースにおいて「音楽を聞いている（あなたを歓迎しない）」と「音楽を聞いていない（あなたを歓迎する）」の選択肢のあいだでの選択を相手

にゆだねているわけである。この場面では、「**je- écouter-de la musique** 音楽を聞いている」という事態を（**A** の問いに答えるために不本意ながら）中断している場合でも、来訪を迷惑がっていることをあえて伝えるなら、**PR** で表すことが考えられる。

上の2で見た二つのタイプの **IA** は「相手の心理的・空間的領域の侵犯」が問題であったが、(48)－(50)の **IA** は「自分の領域からの相手の排除」が問題なのであり、第三のタイプのものということになる。そのような差異はあるが、どのタイプにも、**PR** で表すと相手が「脅威」を現在スペースのこととして受け取るということになるという共通点がある。

4. おわりに

本稿では、**IA** がどのようなものであるかを明らかにすることをめざした。そのために、**PR** と **IMP** の機能を検討し、欲求または移動に言及する発話例を分析し、第三のタイプを含む **IA** の特性を考えてきた。

多くの場合、「脅威」となる事態 **P** が現在スペース（対話場面）にあることは、状況から相手も見当がついている。「脅威」としては次の三つが認められる：

- 1) 相手の心理的負担：相手が「なんらかの行動を求められている」と感じる。
- 2) 相手の領域の侵犯：相手が「領域に踏み込まれる」と感じる。
- 3) 自分の領域からの相手の排除：相手が「追い払われている」と感じる。

その場面で発話者は、**IMP** を用いて過去スペースの事態 **P** を表す。すると、相手は：

- ・ **P** を、当然、過去スペースの事態として受けとめ、現在スペースの事態としては受けとめない。そのため、「脅威」を感じることはない。
- ・ (**IMP** は現在スペースにおける **P** の生起について中立だから) **P** の現在スペースにおける生起は「ある」「ない」の2つが考えられ、そのどちら

であるかの選択権を認められていると解する。そのため、自分の気持ちが尊重されていると感じる。

- ・実際には **P** が現在スペースに（も）あることを理解している。そして、発話者が **IMP** を用いることで現在スペースの **P** に言及しないでいることに「配慮」「遠慮」「奥ゆかしさ」を感じる。

このようなことから、相手がそれだけ快く現在スペースの **P** に対応してくれることを、発話者としては期待できることになる。**IA** とはこのようなものである。

注

- (1) 西村牧夫氏（西南学院大学）作成の電子データの恩恵に浴した。インフォーマントはフランス人 3 人。とくに **Jean-Paul HONORÉ** 氏（Univ. de Marne-la-Vallée）には長時間の面接に応じていただいた。また、関西学院大学の同僚 **Olivier BIRMANN** 氏、伊藤了子氏との討論も非常に有益であった。
- (2) 以下の発話例のうち出典を示していないものは、インフォーマントの協力を得てわれわれが作成したもの。
- (3) 発話者が「現在スペース」とみなすのは、想像力によって思い描く時間の流れの中でそれと意識する時間的広がりすることもある。ex. *Quand elle me sourit, je suis heureux.*
- (4) 「接客の半過去」については、渡邊（2006）を参照。
- (5) このことは上の 1. 2. の 3）に述べた。

主要参考文献

- Abouda, L. (2004), “Deux types d'imparfait atténuatif”, *Langue française* 142, 58–74.
- Anscombre, J.-C. (2004), “L'imparfait d'atténuation : quand parler à l'imparfait, c'est faire”, *Langue française* 142, 75–99.
- Berthonneau, A.-M. et G. Kleiber (1994), “Imparfais de politesse : rupture ou cohésion?”, *Travaux de linguistique* 29, 59–92.
- Gosselin, L. (1996), *Sémantique de la temporalité en français*, Duculot.
- 春木仁孝（1999）, 「半過去の統一的理解をめざして」『フランス語学研究』33, 15–26.
- Labeau, E. & P. Larrivée (eds) (2005), *Nouveaux développements de l'imparfait*

(*Cahiers Chronos* 14), Rodopi.

西村牧夫 (1999), 『解説がくわしいフランス文法問題集』, 白水社。

——— (2003), 「見える文法, 見えない文法」『ふらんす』 2-3 月号。

Saussure (de), L. & B. Sthioul (2005), “Imparfait et enrichissement pragmatique”, Labeau, E. & P. Larrivée (eds), 103-120.

Sthioul, B. (1998), “ch. 9 Temps verbaux et point de vue”, *Le Temps des Evénements* (eds. Moeschler, J.), KIMÉ, 197-220.

東郷雄二 (2005), 「フランス語の隠れたしくみ」『ふらんす』 8-11 月号。

——— (2006), 「フランス語時制体系における半過去の位置づけ——Je t'attendais 型半過去再考——」(関西フランス語研究会ハンドアウト)。

渡邊淳也 (2006), 「フランス語の『丁寧の半過去 (imparfait de politesse)』と日本語の『よろしかったでしょうか』型語法との対照研究」『文藝言語研究・言語篇』 50, 筑波大学, 41-84。

Wilmet, M. (1996), “L'imparfait : le temps des anaphores”, *Cahiers Chronos* 1, 199-215.

——— (1997), *Grammaire critique du français*, Hachette.

——文学部教授——